

令和6年度 第3回 「淡路島観光戦略会議」 議事要旨

日時：令和7年3月6日（木） 14:50~15:25

場所：淡路広域消防ビル3階 多目的ホール

出席者：淡路県民局長、洲本市長、南あわじ市長
淡路市長、淡路島観光協会会長

議事：

- (1) 令和6年度 淡路島総合観光戦略アクションプランにかかる取組状況について

事務局から資料 1-1、1-2、1-3 について説明

【構成員】

- ・ 淡路南インターは上下線ともにサービスエリアがあるので、サービスエリア内に高速バスを停車させ、外側からシャトルバスで迎えにいけるようにするプロジェクトを本四高速と協議中である。大鳴門橋の自転車道が開通する2027年度を目指しており、高速バスで来島された方が、レンタサイクルで自転車道を走る仕組みである。
- ・ ガイドについては、今年度、英語対応が可能な方を3人認定した。その内の1人が商社のOBで英語が堪能であるが、使い道がないという方だった。そのような方が他にもいると思うので、引き続き取組の推進をお願いしたい。

【事務局】

- ・ ガイドの多言語対応については、インバウンド誘客を推進していくうえで重要なので、育成を推進していきたい。

【構成員】

- ・ 関係者の皆さんの協力があって、76ものSDGs体験型コンテンツが造成できたことは大変うれしく思っており、感謝申し上げます。
- ・ バスのオープンドア化については順調にしているとは言い難い。バス会社の立場的には理解が得られていないが、JRの本社については、地方へのインバウンド送客は大命題であると考えてい

るので、アプローチの仕方を変えて、オープンドア化を実現し、オーバーツーリズムとなっている京都・大阪から誘客を促進できればと思う。

【事務局】

- ・ アプローチのやり方を検討しながら、取組を推進していきたい。

(2) 令和7年度 淡路島総合観光戦略アクションプランにかかる取組について

事務局から資料 2-1、2-2 について説明

【構成員】

- ・ 観光コンテンツの造成の 76 プランで島内 46 箇所とはどういう意味か。

【事務局】

- ・ いろいろなプランを展開している事業者がいるので、46 事業者で 76 プランという意味である。

【構成員】

- ・ 体験プランの掛け合わせは大事である。玉ねぎの収穫体験と畑を眺めながら、オニオングラタンスープを食べるようなプランや線香についても、文化の観点から平安時代のお香遊びを思い出させるような香道体験に繋げていく。特別感のあるプランに磨き上げることで満足度を更に高めていく。
- ・ 受け入れ体制については、洲本市と岬町がやっている深日ライナーを延伸し、関空～岬町～洲本市～徳島空港・徳島駅と関空から徳島まで繋がれば周遊ルートとしていいものになる。
また、神戸空港の国際化を契機に、神戸空港～淡路島までのダイレクトバスの運行についても働きかけてはどうか。
淡路島から万博会場への送客については島内民間企業が毎日 2 往復、船を運航することが決定しているので、乗船場(交流の翼港)までの洲本市や南あわじからの移動手段として、乗り合いタクシーやバスの運行についても働きかけてもいいのではないか。

【構成員】

- ・ 徳島県は空港活用についてかなり積極的で、定期チャーター便を香港・仁川(韓国)と確立してきて、今後はタイを着地とするチャーター便の就航を企画している。周遊ルートとして、徳島空港を

活用できればいいと思う。

【事務局】

- ・ 今後はプランも増やしつつ、イートインと組み合わせたプランにブラッシュアップできればと思う。イートインの掛け合わせとしては、南あわじの「濱田ファーム」が県の補助金を用いて小屋を設置し、玉ねぎのスライスを食べる環境を整備した。生産者の方も意欲がでてきている。
- ・ 徳島空港の活用等については、これまで以上に連携を図りながら取組を推進していくと、徳島県の担当の方と協議したところである。神戸空港についても働きかけを行えばと思っている。
ひょうご観光本部のアクションとして、大韓航空と主要旅行会社の12名が3月末に淡路島に来島してもらえることになった。当初は神戸だけだったが、洲本温泉にも宿泊していただき、温泉と食を楽しんでもらえる。県下、いろいろな地域があるなかで、淡路島を選んでいただいたので、この機会に売り込みとフォローをしたい。

【構成員】

- ・ 神戸港でメガヨット・スーパーヨットが係留できる整備をすることが決まった。関空でも同様の動きがあるなかで、淡路でも検討できないか。

【構成員】

- ・ どれくらいの規模なのか。

【構成員】

- ・ 70フィート以上。神戸港が整備できれば、関東圏のメガヨット・スーパーヨットを購入したいが、置き場がないことを理由に断念している方である程度埋まるだろうと想定される。淡路でも整備されれば、海外の富裕層が瀬戸内をクルージングする際の係留場所として、関空や神戸空港からも比較的近く、海も綺麗ということで、淡路を選んでもらえる可能性はある。

【構成員】

- ・ 洲本港の水深は十分あり、現状の浮棧橋でも100フィート規模のヨットであれば乗り付けが可能なので、神戸港が整備することを契機として、県と話を詰めていきたい。

【構成員】

- ・ スーパーヨットの定義とは。

【構成員】

- ・ 100 か 130 フィート以上だったかと思う。洲本港では 100 フィート規模のヨットが停留していることもあるので、十分可能かと思う。関空の整備に対する姿勢はどうなのか。

【構成員】

- ・ やらなければならないと思っている。

【構成員】

- ・ メガより小さいヨットであれば、現状どのような潮流なのか。

【構成員】

- ・ 国内日本人でいうと、西宮や芦屋に係留している人がいる。瀬戸内全体の問題でもあるが、係留できる場所が少ないためにクルージングを諦めているケースも少なくない。

【構成員】

- ・ 整備したいが、港にどのような整備を施せばいいかがよくわかっていないケースもあるのかなと思う。

⇒ 令和7年度のアクションプランについて承認

以上